

- 暦算全書, 1723, 清の梅文鼎著, 西洋暦学の紹介書。
1733邦訳。
本草綱目, 1590, 明の李時珍著, 博物学の集大成。
1612邦訳。
霊台儀象志, 1674, 清朝の宣教師, 南懷仁(フェルビ
ースト)著, 西洋天文学の紹介書。
解体新書, 1793, 杉田玄白ら著
西洋医学の紹介
内科選要, 1793, 宇田川玄随著
オランダ内科書の紹介

であって, 当時著明の蘭学書目を含んでいるが, 「天地二球用法記」「暦象考成上下, 後編」が見えない。なお志築忠雄の「暦象新書」(1802年)とはほとんど同時の刊行である。

4. あとがき

以上によって, 広瀬周伯が当時すぐれた蘭学者で, 権威ある古書に対しても不合理な点があると之を厳密に批

判し, 又望遠鏡で天体を観測したり, ウェールガラスを作って実験したりして色々な事実をあくまで自分で確かめていることが知られる。現今からみればもちろん不十分な点もあり, なお陰陽説にも影響されている点もあるが, 強く実証的精神に貫らぬかれている所が高く評価されねばならない。

当時常陸地方には山村才助(土浦藩, 地理学者)鷹見泉石(古河藩, 「雪華図説」の編者)などのすぐれた蘭学者があったが, 地理的に両藩の間にある谷田部落でも, 小藩ながら広瀬父子が蘭学の紹介に努めたことは注目すべきことであって, これらの先覚者の関係についてはなお不明のままである。

おわりに, この調査に当り谷田部町教育長石川輝之助氏および周伯の子孫に当る中山, 広瀬, 広引三家の方々にご教示いただいた。ここに記して感謝の意を表する。

理 事 会 だ よ り

第9回常任理事会議事録

日 時 昭和38年3月4日(月) 17.00~21.00
場 所 神田学士会館
出席者 畠山, 須田, 増田, 村上, 松本, 今井, 有住,
正野, 神山, 吉武, 淵各理事(順序不同)
決 議

1. 大会の行事日程を次のとおりとする。

大会(研究発表)(両会場)	5月15日(水) 9.00~12.00
// (//)(//)	// 13.00~17.00
大会(研究発表)(両会場)	5月16日(木) 9.00~12.00
// (//)(//)	// 13.00~15.00
総会; 学会賞・藤原賞授賞 (第1会場)	// 15.00~16.20
受賞記念講演: 斎藤鍊一氏 (第1会場)	// 16.30~17.00
懇親会	// 18.00~
大会(研究発表)(両会場)	5月17日(金) 9.00~12.00
// (//)(//)	// 13.00~17.00

2. 大会の座長は講演企画委員会に一任する。
3. 学会賞, 藤原賞受賞者の論文集を作って保存す

る。

4. 本部からの総会提出議題は藤原賞受賞者選定規程と細則一部改正の件とする。
5. 国際雲物理会議に関する件を正野, 畠山, 今井各理事と磯野評議員とで検討し総会に提出するかどうかをきめる。
6. 関西支部提案の支部交付金の増額については予算案作成の時考慮する。
7. 正野理事長が3月末から9月末まで渡米不在中吉武理事長が代行する。
8. 気候候国際会議から神山理事に招待状が来たので学術会議に推せんする。
9. 朝日賞学術奨励金に関しては今後前以って天気公募する。今回は締切がせっぱくしているので研究グループに照会してあれば1件を出す。
10. 日中友好協会のあっせんにより今秋学術調査団が来日するので, 気象学者をなるべく入れてもらい, 学会として出来るだけ応援する。
11. 天気の編集委員に新たに関口理郎氏をお願いする。